

今、その時を大事に

園長 日高 好治

夏休みに入り、2週間程が過ぎました。子どもたちは暑さにも負けずに元気に過ごしていることと思います。これからが夏本番ですので、新型コロナウイルス感染症対策や熱中症にも注意をしてあげてください。

さて、今回は夏休み期間の園長だよりということもあり、少し家庭教育に関する内容を紹介させていただきます。子どもの誕生とともに、親としての対応が求められるようになります。「子どもの発達段階に合わせた親の役割」というテーマでまとめてみました。少しでも参考になればと思います。

乳幼児期①(0~3歳)

- 周囲のものをまねて覚える
 - ・ 親のすることしか子どもはできない
(言動 生活態度 夫婦仲の善し悪し)
 - ・ 子どもは、他人との関わり合いの中で育つ
(親類 近所 地域との付き合い)
- 厳しくても、しつけは体験として残る
 - ・ 情緒の安定 → 心が育つ(思いやりの心)
 - ・ 手を差しのべるのも愛情、差しのべるのを控えるのも愛情
 - ・ 親の言うことは聞かないが、親の真似はする
(あいさつ 食事の作法 整理整頓)



やあ、出てきたね
どうだいこの世界は
しばらくは
一緒に生きてゆくんだよ
(誕生した我が子へ)

乳幼児期②(3歳以上)

- 自我意識がかなりはっきりする
- 考え方が具体的、直感的
- 言葉が知的発達を促す~読み聞かせ→本好きな子に
- 社会性は親の意志に従うことで学び、友だちとの遊びの中で育つ
 - ・ 子どもを見つめ、自分自身の足らなさを反省する親の子どもは社会性が育つ
(思いやり、がまん、物を大事にする善悪のけじめ、手伝い)

おにぎり
おかあさんのてが
やけどするぐらい
あついごはん
おにぎりつくったら
いちばんおいしい
おにぎりになるねんで
たべるとき おにぎりが
やさしくたべれる
(小一の子どもの詩)



次回は、児童期の親の役割について紹介できればと考えています。

【保育信条：尊いみ教を聞いて ほとけの子を育てます】

8月の主題

反省(はんせい)=すみません

私たちは自分の悪かったことや欠点を棚に上げて、他人を責めたりすることがしばしばあります。一方、親切な忠告を受けてもなかなか素直に間違いを認めようとしなかったり、失敗の責任を誰かに転嫁したり、時には相手を恨んだりすることさえあります。他人の落ち度は簡単に指摘することができても、自分自身を省みてその非を認めることは、なかなか容易なことではありません。

このような意味で、真の「反省」を子ども達に求めるのはなかなか難しいことですが、自分が間違えた時には「済みません」あるいは「ごめんなさい」という言葉を日常生活の中で素直な態度で、そして心を込めて自然と言えるように習慣化していくことは可能かと思われます。今月は、子どもたち一人一人が他人に迷惑をかけた時には、自然と「反省」の言葉を口にできるよう、日々の保育を進めていきたいと考えています。



お泊り保育での子どもたちの表情

家から離れ、友だちや先生たちと過ごした一泊二日。やり遂げた子どもたちは、少したくましくなりました。

(お泊り保育のスタート)

(お出掛けはお弁当バスで)

(美山陶遊館でペン立てづくり)



(貸し切り状態のお茶の里公園)



(スパランド裸・楽・良で水遊び)



(夕食は美味しいカレーライス)



(火を囲んで「キャンプだホイ」)



(花火もきれいでした)



(〇〇先生も来てくれました)



(就寝前の読み聞かせ)



(よく眠れたかな)



(最後に参加証をもらう子供たち)

